

# 安全センター

[発行]  
 尼崎労働者安全衛生センター  
 [連絡先]  
 〒660-0802  
 尼崎市長洲中通 1-7-6  
 TEL・FAX 06-4950-6653

**明日への伝言**  
 アスベストヨロケならンアスベスト社会へ  
 中核アスベスト患者  
 患者と家族の会 尼崎支部  
 あやまれ・つくねえ  
 アスベスト  
 1,890円(当センター割引あり)

## 第29回総会成功 — パワハラ特別講演 —

三木啓子さんの講演を  
 たくさんの方が聴くべし



九月二十六日、尼崎安全センター第二九回総会を一八時から中小企業センターで行いました。各労組・団体・アスベスト患者と家族の会、安全センターOB、一般参加者など二七名が集いました。

### 活動報告、活動方針

二〇一七年度の定例交流会は「今職場で問題になっていること」、「人事評価(考課)制度に

ついて考える」、「職場の人間関係を良くする・悪くする取組み」、「知っ得!安全衛生で納得」、「組合員(従業員)の声を聞く取組み」、「工場解体とアスベスト」、「安全衛生委員会の取組み」、「大坂北部地震からみえた職場の取組み成果・課題」をテーマとして開催しました。多くの職場で問題となっているハラスメントの温床となる人間関係について、また地震・台風など自然災害の発生に応じてテーマを検討しました。

講演会は「残業代ゼロ法案と『働き方改革』」、「産業医制度の活用のしかた」をテーマとして講師にお話しいただきました。六月には「クボタショックから一三年アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会」にも主催団体として取組みました。一二月には韓国のサムソン電子で働いて白血病を発症して亡くなったファン・ユミさんの実話を元に、裁判で労災認定を勝ち取るまでの父親の闘いを描いた「もうひとつの約束」の上映会も行いました。

二〇一八年度は「安全衛生委員

## 2018年度加盟労組・団体

JAM 東洋精機	武庫川ユニオン
" 木村化工機	阪神医療生協
" ヤンマー尼崎	阪神労災被災者交流会
" 日本スピンドル	ひまわり医療生協
全国一般 富士レジン工業	ひまわりの会労災被災者交流会
日本板硝子共闘	-----
自治労 尼崎市職労	賛助会員 連合尼崎
" 尼崎市水道	尼崎地区労
日興商会	全国一般阪神地協
	全港湾大阪支部
	自治労阪神淡路共闘会議
	連帯労組関西生コン支部

会の取組み」、「災害・事故報告」、「ストレスチェックの活用」、「職場ハラスメント対策・予防」、「交通事故対策・予防」、「職場の安全衛生教育」、「自然災害(台風、地震)時の対応」などをテーマとして交流会・講演会に取組みます。交流会・講演会共に参加者が減少傾向にあります。労働者同士の交流や学習の場は職場の環境改善や労働者の健康を守るための貴重な機会となります。各労組から

## 2018年度役員体制

議長 松原保 (代行)	運営委員 岡田光次 (尼崎市職労)
副議長 高所尚也 (JAMヤンマー労組)	" 高田郁夫 (尼崎市水道労組)
事務局長 飯田浩 (専任)	" 末吉幸雄 (日本板硝子共闘)
事務局次長 塩見有生 (阪神医療生協)	" (JAM木村化工機)
会計 柏原啓二 (阪神医療生協)	会計監査 武澤泰 (アスベスト患者と家族の会)
運営委員 藤田哲平 (JAM東洋精機)	" 嶋内良則 (社会保険労務士)
" 原達也 (日興商会)	顧問 谷村梓
" 斎藤純一 (全国一般富士レジン工業支部)	

### 俺も大いに反省することあり

尼崎安全センター二九回総会後の特別講演。「これってパワハラ!?」改善や対策はどうやって?三木啓子講師による講演を聴いて思い感じたことを述べることにする。

俺は絶対に、いや、ほとんどパワハラ行為などなかった、と思いきや、今回の話を聴いた。しかし聞いているうちに、もしかや、と思えることを思い出した。今回の講演では「ロールプレイ」が行われた。このロールプレイの

の積極的な参加をお願いします。

中身だが、AさんがBさんに質問した。  
 A.. Bさん、ここがわからないので、教えていただけますか。  
 B.. はあく(ため息) Aさん、そんな事もわからないのですか。  
 A.. すみません...  
 B.. このくらい常識ですよ。やれやれ(馬鹿にしたように)  
 A.. 申し訳ありません...  
 B.. この前も説明したよね。ずいぶん働いているのだから、それくらいわかるでしょう。ダメな人ですね。  
 A.. (・・・)

このやりとり(当日資料引用)の(裏面に続く)

中で自分自身に思い当たるところがあつたのだ。何気なしに発する言葉で、相手の心を傷つけるのだ。私が教える言葉の中には、このような言葉があつたか否か。あつたかも知れないと・・・。

教えられる側（Aさん）からすれば、わからないから聞いているのだが。人格を否定する言葉が・・・。Aさんは傷ついただろう。

私自身は企業で給料をもらつていながら、かつ教えてもらえることには感謝こそすれ、すこしぐらいの人格否定などは当然であるかのように思っていたやも知れない。何故なら、私には教えてもらう先輩も上司もいなかったからである。（これは言い訳にすぎないのだが）自分で本屋をあさり、探して参考となる書物を見つけて勉強した。時間的にこの本探しには多くの時間を費やしたのだ。私が教える彼らは、本屋で探し見つける必

要もなく、言われたことを憶えるだけなのだ、と。自分におごりがあつたのでは。大いに反省するところである。

### 身内にもパワハラ被害が・・・

これはほんの一例だが、今回講演を聴いて自分のパワハラを恥じる場所である。社会ではもつとひどいパワハラ事象がある。私の身内もパワハラで頭を丸刈りにしたことがあつた。私がその上司に会つて話をしようか、と言つたが身内は拒み、結局会社をやめた。同じような対応を受け、精神的にまいってしまった人たちも多いことだろう。新聞紙上で掲載される事象など、ほんの一部にすぎない。企業・社会全体がこのような講演会をたびたび開催し、多くの人たちが講演を聴けば、気づかずにパワハラ行為を行う人たちが一人でも減ると思うのだが。（松原保）

## 職場の定期健診は時間内に

安全センター総会の前くらいに、会社の定期健康診断を時間外にやりますと言ってきたが・・・、という一般からの相談がありました。確かに、零細企業などでは、仕事を終えて1人々2人づつ近隣の医療機関を受診というケースもよくあります。ちゃんとやるだけでもまし、という考え

もあります。

もう一方で、集団健診車が来てくれる職場や、労働組合のある所。当然定期健診は時間内に行われ、賃金もついているというのが普通でしょう。再検・精密検査までは会社の負担で時間内受診を認めさせている職場も多いと思います。協定化してい

るとすれば、「健康診断は時間内に行い、それに要する費用は会社の負担とする」といったところでしょうか。精密検査の時間と費用も会社が負担しなければ、せつかく健診を受けても、後はほつたらかしということになりかねません。

深夜勤務や振動・騒音、有機溶剤、放射線、発がん性のある特定化学物質の健康診断では、当然使用者に実施義務があり、検診の費用負担、賃金支払い義務など企業が負います。一昔前にはあたり前に労使間で確認されていたことが、ひよつとしてあちこちで揺らいできているのではと、心配になります。

### “戦後民主主義”を

#### さらに鍛える

さて一昔前と言えば、安全衛生に直接かかわることではないのですが、私にとつて気になることがあります。一つは『もはやこれまで』という中皮腫長期療養患者について報告したもので、とてもすぐれた本なのですが、どうしても気になる記述があります。それは、あの第二次大戦での日本の特攻隊戦術（志願という名の無謀な命令）はやむを得なかったとし、特攻隊の記念館にならつてアスベストの情報センターを考えようという記述です。日本は公式には日本の引き起こした軍国主義の戦争を「侵略戦争」と認め、アジア諸国に

一応謝罪をしています。これを覆そうと考える人たちが少数とはいえ、いま権力の中枢に入り込んでいっている現実です。アスベスト被害は加害者がいたから被害者も出ているのですが、特攻隊の記念館はそのような記述はありません。

もう一つは、6月1日患者と家族の会による東京での省庁交渉のための宿泊に、アパホテルが用意されていたこと。アパホテルはいわゆる「自虐史観」に反対する大東亜戦争肯定を主張するホテルとして知られています。各部屋に会長の主張を盛り込んだ本が置かれています。男なら、とか、男らしくということがやたら強調されている本でもありました。

2年ほど前に新聞にこんな投書がありました。「戦後民主主義の真ん中を生きてきた世代としてはキツネにつままれたみたいないな感じ。二度と戦争しない、戦争なんかする国になるわけない、と信じたけれど・・・」確かに始めのうちは、私もそんな感じでした。でも今は、一つひとつゆるがせにせず丁寧に討論し、行動する時代です。

### 胸膜中皮腫・大橋昭さんの

#### 死を悼む

今から50年前の1968年8月、「社会主義国」チェコスロヴァキアに「社会主義国」ソ連が戦車を連ねて侵攻したチェコ事件。ドブチエクの民主化、「人間の顔をした社

会主義」に世界の多くの労働者・民衆が希望を見た時代、それは、私が初めて多くの人たちの前で自分の意見表明を迫られた時でもありました。それから50年、今の中国や北朝鮮、ロシアに希望を見出す人たちが一体どれだけのいるのでしょうか。

この8月に、半年少し前に胸膜中皮腫の労災のことで相談を受けていた社会活動の先輩、大橋昭さんが亡くなりました。81歳でした。長年



1976年4月 阪神医療生協理事研修会和歌山、潮岬にて 後ろの人が大橋昭さん

にわたり、住友金属尼崎工場で、加熱炉の温度管理や補修作業を行つてきて、石綿による労災と認定されました。尼崎安全センターの中心を担つてきた阪神医療生協の理事も長く勤められ、安全の講演会等にも参加されていきました。私も1978年（昭和53年）から一期理事を一緒にさせていただきました。せまい尼崎の街です。縁のある少なからぬ人がアスベストの病気で倒れていきます。ご逝去をいたみ、合掌。

（飯田 浩）